

令和3年度第4回県立高校将来構想検討協議会における協議の概要について

1 開催日時、会場

令和3年9月30日（木）午後1時～午後3時 県庁4階 共用第4会議室

2 協議の概要

- (1) 学校・学科の再編整備について
- (2) 将来構想の推進について
- (3) 次期県立高校将来構想（たたき台）について
- (4) まとめ

今回の意見も踏まえながら、次期将来構想の素案を事務局がまとめることで全委員が了解
次回は次期将来構想の素案について協議をする予定

3 委員からの意見

(1) 学校・学科の再編整備について

- 多様な生徒が、一定の学校規模の中で、様々な活動を通して自分を見つめたり、他者と協力したりすることは、社会に出て行く前段階の教育としては非常に大切ではないかと思う。
- 色々な人との関わりや様々な教育活動に参加することで、劇的に変わっていく生徒がいることから、ある一定の学校規模を確保することは、将来につながる大切なことだと思う。
- 中学生から見ても、他学科と連携をして様々な取組をすることは、学校の魅力になってくるのではないかと思う。
- 小規模校にも良いところがあるが、これからの社会は大きな変革を迎え、より人間的な部分を求められる。生徒たちに様々な人と協働する経験をさせるためにも、一定の学校規模が必要である。
- 今回示されたたたき台は、今までの協議会の内容も盛り込んであって、非常に説得力のある展開になっていて、大変素晴らしいと思った。
- 大学等への進学に重点を置く取組や高度な専門性をもった産業人材を育成する取組などの拠点的な役割をもつ高校は、県内にバランスよく配置してほしい。また、今後こういった学校を募集停止しないような工夫をしてほしい。
- 今ある分校についてということではないが、今後の再編整備を考えたときに、ある程度の学校規模をめざして進めていくことは必要であると思う。
- 小規模校を否定するものではないが、自分の進路にあった教科や科目を選べるなど、選択幅の広い教育を受けることができ、さらに、部活動を選ぶことができるという意味でも、ある程度の学校規模は必要である。
- 地元からの入学生が一定数いれば、学校の存在意義があるのは確かであるが、そうでなければ、たたき台に示されているように地元中学校卒業者の入学状況を見極めた上で募集停止を検討することは、やむを得ないと思う。
- 様々な意見やニーズがある中で、総合的に再編整備を考えていかなければならないと考えると、この案で進めていかざるを得ないのではないかと思う。再編整備を進めるに当たっては、魅力ある学校づくりも並行して進めてほしい。
- 求人数が横ばいするとき、専門高校の生徒数が減ると需要と供給のバランスが崩れ、地場産業に影響が出る。
- 分校においては、市街地から列車で通学してくる生徒の割合が以前よりも高くなっており、それならば、市街地の高校の定員を増やしてはどうかという声を聞いたこともある。

- 今の時代に求められている福祉人材の育成のため、福祉を学べる学科の設置や、コースの中に福祉を入れるなどを検討してほしい。
- 探究的な学習をする際に、新しい学科を設置すること以外に、普通科という大きなくくりの中で探究的な学習や福祉的な学習を取り入れるような学科の再編もあるかもしれないと思った。
- 15年後の想定学級数について、工業科の数だけ増やす形になっている。中学生の進路希望や日本総研のデータ、全国の普通科人気の方向性から逆行するのではないかと。
- 私立高校との共存を図りながら山口県教育の全体の発展、維持・向上を図る姿勢をこの構想でも示してもらい、ありがたい。
- 今後、再編整備を進めるに当たって、特に、山口県の教育力を高める特色ある取組や、活力ある学校づくりをしている学校に対して、県として公立私立を問わず財政的に支援してほしい。

(2) 将来構想の推進について

- 今後の中学校卒業見込者数の減少だけではなく、各学校の状況、本県の特性を踏まえて実施計画を策定することは必要である。
- 5年単位で実施計画を策定することは、長期的な視点でじっくりと再編整備に取り組んで県全体の動きが見えやすくなるという点で好ましい改善だと感じた。
- スクール・ポリシーに基づき、魅力ある学校づくりをこれから深めていくためには、学校運営協議会でしっかりと話し合っ、各高校が地域・社会に貢献する取組につなげてほしい。

(3) 次期県立高校将来構想（たたき台）について

- 普通科系学科について、新しい時代を生き抜く子どもたちを育成するために、高校でも文理融合、STEAM教育といった探究活動は、今後ますます充実していく必要があると感じている。
- 山口県には機械、電気、化学、土木・建築等全ての分野において企業からの求人があるため、工業高校は、全ての分野が揃った拠点となる学校を、各地域に配置してほしい。
- 特色ある学校づくりについては、拠点となって進める学校が必要であり、本県の特性を踏まえて県内にバランス良く配置してほしい。
- 工業高校と同様、商業高校も、全県的なバランスを考え単独の拠点校を配置してほしい。
- 学科の枠を越えて協働する「やまぐちハイスクールブランド創出事業」における教育活動を通して、生徒たちが連携し、互いの良さを学んで、社会に出たときに力を発揮する力を身に付けている。様々な学科が一つの学校の中にあれば、身近にすぐ連携することができる。
- ある程度の学校規模があれば、地域貢献や地域連携の両方ができることから、一定の学校規模は必要であると思う。
- 農業に関する学科の在り方については、大変よくまとめてあると思う。これからの新しい時代の農業の担い手をめざした教育活動の充実を図るためにも、この構想に沿って進めてほしい。
- 再編整備により通学が大変になる地域も出てくるため、修学支援の充実は大切である。
- 保護者にとって、路線バスの充実など、修学支援の充実が一番気になる場所であり、とても大切だと思う。
- 農業や福祉などに関する学科は、地域貢献に必要な部分でもあるため、もう少し力を入れてもよいのではないかと。
- コミュニティ・スクールに関する「地域貢献」という記載について、中学校までは地域貢献であるが、高校は「社会貢献」の方が適切かもしれない。
- 小規模校だからこそゆっくり学べる生徒もいるのではないかと。
- 近隣に複数校あるような場所に、高校生用の寮を作ることも検討してほしい。
- 生徒のニーズの多様化に対応して複雑化してきた教育課程のスリム化や、受験との兼ね合いを考える必要がある文理融合、また共通教科・科目でのSTEAM教育の特にArtの扱いについては今後研究が必要であると感じている。